

講義メモ（第13回） 教育社会学について

今回は、教育社会学について、皆さんの理解したことを、書いて下さい。

教育社会学の全体的なことでも、また個別的な見方のことでも、方法的なことでも、疑問に感じることも構いません。

具体的には、1 教育現象を社会的に考察するのが教育社会学と言われるが、社会学とはどのような見方をするのか。 2 教育社会学の実証的方法、つまり調査とは何か、どのような方法で行うのか。 3 教育においては、熱意や理想や価値観が大事だと思うが、教育社会学ではそれらはどう扱われているのか。教育社会学は教育実践に役立つのかなど。

購入していただいた青の冊子では、第I章が、「教育社会学とは」ですので、その章を読んで理解したことや疑問に思ったことを書いていただいても構いません。

また最初に配布したプリントでは、下記が、直接、教育社会学のことや方法論に関して論じています。

NO2 「教育社会学の性格」（新堀通也）、「教育社会学の課題」（藤田英典）

NO3 「教育社会学のパラダイム展開」（藤田英典）

NO4 「機能主義、葛藤理論、解釈理論、批判理論」

NO5 『創造の方法学』（高根正昭）

NO2やNO4にあるように社会学の見方として、「機能主義、葛藤理論、解釈理論、批判理論」という4つの見方があります。特に最初の「機能主義」という見方が、全体の基本にありますので、それを理解してください。

それは社会の中にある要素（部分）同士が皆相互に関係していて、いろいろな機能（はたらき）の行き来（交換）があるという考え方です。特に「構造機能主義」という少し古いシステム論的な考え方があります。それが社会的な見方の基本ですので、それを説明します。

それは、どのような集団や組織や社会も、有機体的な特質があり、個々の要素（部分）は、有機体のシステム全体を維持しようとする機能があるという見方をします。（別の言い方をすれば、「社会秩序はどのようにして維持されているか」ということです。ただそれが良いことか悪いことかの判断は保留します）

人の体の体の一部の要素に破損が生じた時、体全体の維持を図ろうと他の要素が機能します（熱が出て、体の消耗を抑えるとか）。部分は全体の維持に奉仕するよう働くと考えます。

有機体の全体の維持、発展に寄与するように、日頃から各要素（部分）は、分業体制をとっています。具体的には、A（適応）、G（目標達成）、I（連帯）、L（緊張処理、パターンの維持）という4つの機能を、分業してバランスよく充足することをしていきます。人の体だけではなく、どのような集団や組織や社会も、この4つの機能がうまく充足されないと、機能

不全に陥り、システムの維持が難しくなると考えます。

これを大学のテニスサークルの存続で説明してみましよう。そのテニスサークルが消滅しないで存続する為には、公認のサークルとして認められ練習場所が確保され (A 機能)、サークルの目的であるテニスの練習や試合を行い (G 機能)、皆が仲良くする話し合いやコンパがあり (I 機能)、個人の不満や緊張が解消されるような場があり (L 機能)、この AGIL の機能がバランスよく機能することにより、サークルが存続します。どのうちどれかが欠けると存続の危機に陥ります。

学級も一つの集団、システムであり、授業 (G) だけでなく、教室設備 (A)、仲間意識 (I)、リラックスできる雰囲気 (L) などがあるからこそ、学級崩壊に至らず、存続します。

この考えが少し古いと書いたのは、このように予定調和的に部分部分が全体の維持に奉仕するような見方は、現実合わない場合も多いからです。

実際は部分部分は競争をし、争っているのかもしれない。同じ会社のメンバーも、経営者と労働者では利害が違い、対立していると考える方が現実的かもしれない。学級でも、教師の立場と児童生徒の立場は違いますし、児童同士の競争やいがみ合いがあり、いじめが起こっているのかもしれない。そのような前提で考えるのは、「葛藤理論」です。

実際は、秩序や葛藤があらかじめ決められるのではなく、人同士は相手の意図を解釈して相互作用を行い、集団や社会をつくっていると考えるのが「解釈理論」です。これらの理論 (機能、葛藤、解釈) を全て含んだものが「批判理論」です。

(これらは、かなり抽象的な論議なので、何にでも当てはまりますが、個々の事例でどの見方が、現実を説明できるかを考えていただいた方がいいかもしれません)

もう一つ、実証性のこと、つまり調査のことで、理解していただきたいことがあります。皆さんも、教員になった時、子ども達の実際を知ろうと調査 (特にアンケート調査) をすることがあると思います。その調査は、原因—結果の因果関係を明らかにしようとして実施する人が多いと思います。

その時、満たせねばならない3つの条件 (① 2つの変数の共変、② 時間的順序、③ 他の変数が一定) があります。これが調査の基本中の基本ですので、プリント NO5 の下段部分を読んで理解してください。(これは、自然科学的な方法の基本で、社会科学の調査で取り入れられています。調査に関しては、冊子の I-9 も参照のこと)。

教育が理想を求め、教師の情熱や子どもの夢などで、不可能と思われたことが実現するということがあります。そのことに関しては、冊子の III-2 (授業から深い学びへ) や IV-5 (コトバが現実をつくる) にも関連することを書きましたので、読んで考えて下さい。

今回の課題は、「教育社会学について、理解したことを書きなさい」というものです。解答は 200 字~1000 字程度で、課題・提出欄から、武内に送って下さい。

